皮膚障害のある皮膚に対するスキンケアについて

野口 彩花

助教 総合研究部看護学講座（高齢者看護学）

KEYWORDS

- 放射線皮膚炎
- 失禁関連皮膚炎
- スキンケア

NEEDS

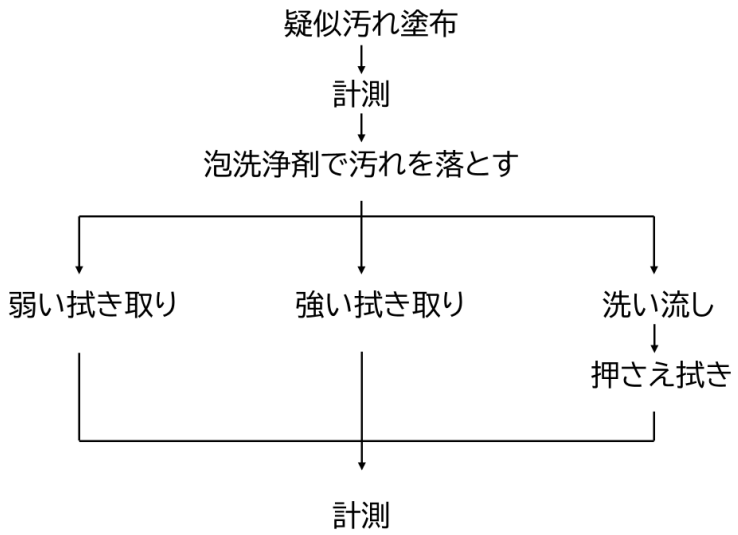
- 疑似汚れや人工皮膚
- 拭き取りや洗浄時にかかる皮膚へ負担の測定技術
- 汚れ落ちを評価する技術など

研究の概要：

放射線皮膚炎や失禁関連皮膚炎など皮膚障害の予防や症状出現時の対症療法として、スキンケアは重要です。臨床では、拭き取り使用も可能な清拭・洗浄料や陰部清拭用ワイプシートなど新たな製品の開発により、これまでの泡立てて愛護的に洗うこと、十分なすすぎを行うこと、拭き取る際は押さえ拭きをするといった洗浄方法ではなく、拭き取りでケアをする場面が増えてきています。これらの使用により、従来方法に比べてケア時間の短縮にもなること、洗い流しにくい部位への使用ができるなど良い点もあると考えます。

しかしながら、放射線皮膚炎や失禁関連皮膚炎等の皮膚障害を生じた場合は、治療のために薬剤の塗布も行われます。正常な皮膚であれば、拭き取りでの対応でも良いかもしれませんが、正常な皮膚よりも脆弱な皮膚状態であること、かつ油分を含んだ軟膏などを塗布している状態の皮膚においても、拭き取る方法で皮膚の清潔を保つことが出来るのか疑問視されます。これらのことから、放射線皮膚炎や失禁関連皮膚炎などの皮膚障害のある皮膚のスキンケアについて探求しています。

実験手順



研究の詳細：

人工皮膚に軟膏処置を想定した疑似汚れを塗布し、拭き取り使用も可能な泡洗浄剤で洗浄後、①微温湯で洗い流す場合と②拭き取る強さを変えて拭き取りを行った場合とで、疑似汚れの落ち具合に差が出るか検証を行いました。この検証の結果では、洗い流しよりもある程度の力を加えて拭き取った方が汚れは落ちる可能性が示唆されました。

今後は、同様の実験を正常な皮膚で行う研究を構想しています。

学会発表：

野口彩花：泡洗浄剤を用いた洗い流しと拭き取りによる皮膚汚れ除去の違い、第23回山梨大学看護学会学術集会（2023年11月11日）、山梨

医学域

山梨大学 UNIVERSITY OF YAMANASHI